

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより  
逢いてエ

# 雑報 縄文

いろいろ差えがあるから面白い  
いろいろ人がいるから楽しい

No. 497  
2018年9月

編集・発行 鈴木厚正  
〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359  
T&F 043-291-2917

も・く・じ

- あの山の向こうに ⑥ 2<sup>ページ</sup>
- 495号を読んで 4
- 知の市場・放射線講座 6
- 「いつまかせヨリ」 「久統敗戦論」 8
- 浅草岳の山旅 12
- 菊月重陽の節供 14
- お便利から 15.26
- 「二度目の敗戦」をどう生きるか 20
- ノモンハン……責任なき戦い 22
- 奥日光散策 23
- 山仕事 (7月大平) 25
- けい・じ・ばん 26

7月27日の会見での  
翁長雄志知事



「最低でも県外」と言った  
だけで去った民主党政権。  
「県民に寄り添う」と言い  
ながら「辺野古が唯一の解  
決策」と工事を強行する  
安倍政権。

そして本土の無関心。

「オール沖縄」を背負って  
闘った翁長さんの重荷を  
思い、頭を垂れる。

2018年  
郵便局で (前号投函直前に訃報を  
知ったため、平賀が遅いのは  
丹を)

8月20日現在の  
会員数249名

この見本誌

題 字 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)  
カ ッ ト : 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、GREETINGS

~SUMMER~

# 山仕事 (7月、大平)

7月20日(金)は、「青春18きっぷ(夏季)」の使用開始初日。伊藤(康)、佐藤、原田、山崎さんと5人。敷地駅に着くと、正士、久米、若林さんと鶴田享子さんが迎えてくれた。鶴田さんは森町の人。天蚕を飼育し布を織るほか、和紙づくりもされるという。

暑さの中、財産区下の茶園で草取り。

夜は、久しぶりに深澤明男さんが見えた。女性三人が申しとなって調べてくれた夕食は、夏野菜の揚げ浸し、豚肉の生薯焼き、四川風冷や奴、サバ缶のキムチ炒め、塩もみキュウリ、茹でとうもろこし、三尺インゲン(十六ササゲ?)、豆畑。英ちゃんと二人、母屋で寝袋。正士のソバ。

7月21日(土)、晴。竹中さんがサザエと白瀬持参で参加、伊藤(康)さんもビールと共に。

作業は昨日の続き。草をとり終えたところから正士さんと英ちゃんがバツカンで茶葉の整枝にかかる。山ちゃんとはくは、茶樹の日影となる柿の枝伐り。

昼は、そうめんと野菜の天ぷら。

午後は、田んぼのあぜ草とソバ畑の草刈り。

(夕)は、小メロンの塩もみ、サザエの刺身(「わたしは入れ毒で歯が立たないのでキビシ)、ナスの黒酢炒め、春雨サラダ、エリンギと牛肉のオイスターソース炒め、サケのタルタルソース和之、糸こんにゃくの煮物、さつま揚げ(焼)、白菜の漬物に正士のソバ。

この夜、久米真弓さんが自作の詩「山仕事のうた」を披露。サイモンとガーファンクルの「アメージンググレイス」のメロディで歌ってほしいとのこと。その詩は、

ひとつの燈火 <sup>ともしび</sup> が我を誘う 夢悠(はるか)に 幾度越える山川 その光(ひ)燃えつくし ふたに歩む道	海山 空は青く この身を満たして 集うは 笑み 歌声 我ら 同朋(はさび) 共に生きる	ひとつの燈火 <sup>ともしび</sup> が我を誘う 夢悠(はるか)に 限りない歎びと愛を胸に ふたに歩む道
--	---	---

格調高い詩、猫の手クラブのシンボルソングにしたいですね。

宴の途中、外に出て首を洗わせる。火星の大接近など今夏は惑星が主役のようだ。この後、酔ってよろけ、コップを割り、足裏を少し切り、迷惑をおかしてしまった。

7月22日(日)、晴。青山さんの産のはずれ、70度ほどの急斜面の草刈り。脚立が梯子がはいと無理だ。途中でやめ、そうめんを冷や汁をひき、豚しゃぶ、こんにゃくと梅海老のピリ辛炒めと西瓜の昼を頂き、帰宅。